

2026年 2 月16日

各 位

会 社 名：ウインテスト株式会社
(コード：6721 東証スタンダード市場)
代表者名：代表取締役社長 姜 輝
問合せ先：管理本部長 鎌田 文明
(T E L：045-317-7888)

通期連結業績及び通期個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

2025年12月期（2025年 1 月 1 日～2025年12月31日）の通期連結業績及び通期個別業績について、前期実績値との差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績と前期実績値との差異について

(1) 2025年12月期 通期 連結業績数値 (2025年 1 月 1 日～2025年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 417	百万円 △1,083	百万円 △1,094	百万円 △1,105	円 銭 △25.27
実績 (B)	429	△1,218	△1,217	△1,242	△23.45
増減額 (B - A)	11	△134	△123	△136	1.82
増減率 (%)	2.9	－	－	－	

(2) 差異の理由

2025年12月期 通期連結業績について、前期実績値の差異が生じた主な理由は以下の通りです。

- ① AI向け半導体製造に設備投資が集中し、当社グループが属する民生・産業分野向け半導体工場の設備投資が凍結される状態となり、売上高は増加しているものの利益率の高い半導体検査装置(製品)の販売に関する売上が落ち込んだこと。
- ② 棚卸資産の評価の精度向上を図り、将来的な財務指標の健全化と持続的な成長基盤を強化するために、前期以上の棚卸資産評価損（売上原価）を計上したこと（前期実績：574,470千円、当期実績：599,920千円）。
棚卸資産評価損の詳細に関しましては、本日公表の「棚卸資産評価損、営業外費用に関するお知らせ」をご覧ください。
- ③ 当社グループが保有する固定資産に関して、直近の損益状況に鑑み減損の兆候があると判断し「固定資産の減損にかかる会計基準」に基づき減損会計基準を適用し、通期で30,657千円の減損損失（特別損失）を計上したこと。

(注) なお、当社は本日「2025年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」の開示を行っております。

2. 通期個別業績と前期実績値との差異に関して

(1) 2025年12月期 通期 個別業績数値 (2025年 1 月 1 日～2025年12月31日)

	売上高	経常利益	親会社に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 225	百万円 △840	百万円 △1,392	円 銭 △31.81
実績 (B)	477	△451	△1,049	△19.80
増減額 (B - A)	251	389	342	12.01
増減率 (%)	111.6	－	－	

(2) 差異の理由

2025年12月期 通期個別業績について、前期実績値の差異が生じた主な理由は以下の通りです。

- ① 連結子会社 偉恩測試技術(武漢)有限公司への売上が増加したこと。
- ② ウインテスト株式会社 個別実績においては、棚卸資産評価損の金額が前期実績より減少したこと（前期実績：314,918千円、当期実績：126,006千円）。
- ③ ウインテスト株式会社 個別実績において、関係会社出資金を実質価額まで減損し、262,796千円

を特別損失に計上しているものの、前期実績より関係会社事業損失引当金繰入額の金額が減少したこと（前期実績：539,703千円、当期実績：262,796千円）。なお、当該関係会社出資金評価額は、連結決算においては消去されるため、連結損益に影響しない。

- ④ 貸倒懸念債権に区分した子会社 偉恩測試技術(武漢)有限公司に対する債権について、個別に回収可能性を検討し、当該子会社の債務超過額や将来の事業計画等を総合的に判断して回復不能見積額を算定し、貸倒引当金繰入額115,682千円を特別損失に計上したこと。なお、当該貸倒引当金繰入額は、連結決算においては消去されるため、連結損益に影響しない。
- ⑤ 当社が保有する固定資産に関して、直近の損益状況に鑑み減損の兆候があると判断し「固定資産の減損にかかる会計基準」に基づき減損会計基準を適用し、通期で30,657千円の減損損失（特別損失）を計上したこと。

以上